



川内原発 乾式貯蔵施設計画に不安の声ひろがる

市民アンケート開始、向田商店街でも「説明会必要」13/14件

使用済み核燃料の乾式貯蔵施設を川内原発敷地内に建設する九電の計画に対し、市民の不安と疑問が急速に広がっています。11月24日、市民団体「川内原発の乾式貯蔵を考える会」が県民アンケートのキックオフ集会を開催。これに参加した井上勝博市議らは、集会後に向田商店街を訪問し、14店舗中13店舗が「住民説明会は必要だ」と回答。地域に広く説明を求める声が強くなりました。

市民団体が県民アンケートを開始 「核のごみ捨て場になる危険」知らせたい

川内原発で進む乾式貯蔵施設計画について、市民団体「川内原発の乾式貯蔵を考える会」が、計画の認知度や住民説明会の必要性を問う県民アンケートを始めました。11月24日のキックオフ集会には約40人が参加。向田商店街では13/14件が「説明会が必要」



乾式貯蔵施設に関するアンケートのキックオフ集会でスピーチする向原祥隆代表＝24日、薩摩川内市の川内駅前

集会後、日本共産党の井上勝博市議らが向田商店街を訪問し、乾式貯蔵計画への意見を聞いたところ、14件中13件が「説明会が必要」と回答しました。「知らないままでは不安」「安全なら根拠を示してほしい」など、切実な声が多く寄せられ、市民の強い不安と説明を求める思いが明らかになりました。

井上市議「市が主体で公開の説明会を」

井上市議は「薩摩川内市民だけでなく県民も参加できる公開の説明会を、市が九電や国

11月の地方選挙

共産党候補 全員当選

11月に行われたちき串木野市・霧島市・南さつま市・曾於市の市議選で、日本共産党候補が全員当選しました。特に、ちき串木野市のにいたに友希市議（31歳）、霧島市のわたなべりえ市議（42歳）の当選は、若い世代へ継承が進む大きな前進です。にいたに市議は、洋上風力反対の運動や「自然と子育てのま

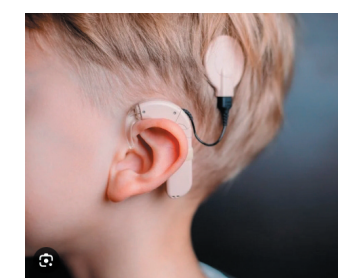
こちららの相談所
(No. 630)
携帯 080-3996-0237 (井上)
なんでもご相談ください。

人工内耳を紛失した母子家庭へ支援を市が聞き取りを開始

母子家庭の小学生が人工内耳（約100万円）を紛失した。

失し再購入できないとの相談が寄せられました。以前住んでいた北九州市では貸与制度がありましたが、薩摩川内市には制度がなく困っています。

【補足：人工内耳とは】補聴器とは違い、内耳の神経を直接刺激して音を届ける医療機器（写真）で、子どもの学習や生活に不可欠です。



12月8日（月）14時ごろから、市議会で一般質問に立ちます。

今回のテーマは、4つの重要課題です。

【1】AIデータセンター（350MW）の影響

電力・排熱・交通・災害時リスク、市はどう考えるのか？市が説明責任を果たすよう求めます。

【2】川内原発の乾式貯蔵施設耐震・津波・船舶事故など「複合災害」の安全性を、市は本当に確認しているのか。県民が参加できる住民説明会を要請します。

【3】介護事業者の経営悪化訪問介護・デイサービスの撤退が出ないよう、市独自の支援や外国人介護人材の受け入れ支援を求めます。

【4】インシシ被害対策出沒状況の把握、ICUでの連絡迅速化、二段電気柵の導入支援など、農家の声をもとに改善を迫ります。

どなたでも傍聴できますので、ぜひ議会へお越しください！
12月8日（月）14時ごろ
薩摩川内市議会 議場（時間は前後する場合があります）



エプロンおばさんの 簡単フッキング（684）

ニンジンと油揚げのさっと炒め

材料（1人分）

豚バラ肉（ブロック）約200g、玉ネギ・レモン各½個、ニンニク1～2片、温泉卵1個

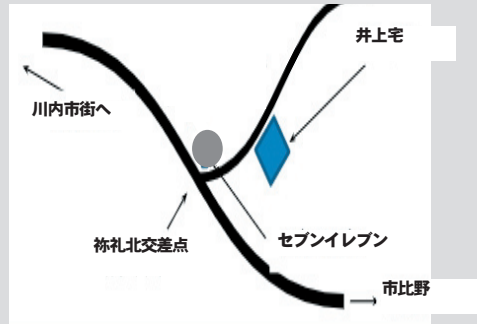
作り方

①豚バラ肉は、厚さ約1cmの拍子木切りにする。玉ネギは長さ半分の薄切りに、ニンニクは薄い輪切りにする。
②フライパンに油大1と①の豚肉を入れて中火で加熱し、表面がカリッとしたらフライパンの脂を

軽く拭き取る。①の玉ネギ、ニンニクを加え、玉ネギの火が通るまで炒める。しょうゆ小2を全体に絡め、塩・こしょうで味を調えて器に盛る。温泉卵をのせ、切ったレモンを添える。

今年も恒例の

もちつき大会



主催：日本共産党薩摩川内市委員会／同後援会

参加費
500円

日時
12月21日（日） 午前11時
会場
井上かつひろ市議宅
樋脇町塔之原10439

☎080（3996）0237

No. 61



シネマ太郎の映画評と案内 TOKYO タクシー（2025）



TOKYO タクシー



はだしのゲンはまだ怒っている

2023年公開のフランス映画「パリタクシー」。これを原作とした「TOKYOタクシー」は、パリタクシー」は、東京版」というわけではなく、公開初日にみましたが、映画館のロビーに人がいっぱい。ほとんどが高齢者。映画館の方に聞くと、「初日だからでしょうか？」と驚いていました。山田洋次監督（94歳！）、91作目の作品。個人タクシーの運転手・宇佐美（木村拓哉）は妻（優香）、中学3年の娘と暮らしていますが、娘の進学費用、家の更新料、車の維持費など経済的な悩みが付きまとう毎日。ある日、85歳の女性・高野すみれ（倍賞千恵子）を神奈川県葉山の高齢者施設まで乗せることになりました。愛想のない宇佐美の接客態度にすみれは憤慨しますが、施設への入所を前に、生まれ育った東京の見納めにと、思い出の場所を経由するよう宇佐美に伝えます。まず向かったのが戦争体験が刻まれた場所。すみれは幼いときの悲惨な体験を宇佐美に話します。浅草、上野、東京駅：見たことがある景色や建物が美しく流れていきます。次第に打ち解けて、やがて、すみれはこれまでの人生を語り始めるのです。「人生には想像のしないことが起きるもの」と。喜びに心躍るとき、暗いど

ん底の日々、二度と経験したくないこと。心機一転の大胆な行動…。映し出された倍賞千恵子をみて、高齢となったなあと思ったのは最初だけ。山田洋次監督が倍賞千恵子のためにつくった映画だと思いました。終盤、倍賞千恵子が歌うあの曲が流れます。この曲が映画を象徴しているように感じました。恥じることも悔やむこともない、もう力をぬいていい、あなたは懸命に生きてきたのだから、といっているようにうでした。さて、気になる次の映画は、「はだしのゲンはまだ怒っている」(12/19、ガーデンズシネマ)です。



←中俣先生のブログはこちら

中俣先生の つれづれなるままに（815）



数年ぶりに、7つ違いの姪っ子が訪ねて来た。私と20歳近くも年の違う姉の子である。年老いて来たので、家も処分し、大阪に住む子どもたちの世話になるのだという。その別れの挨拶であった。姉には娘3人と男の子の4人の子どもたちがいた。三女は旦那さまが福岡の人だったのだ。そこに居を構えている。次女は、早々と旦那を亡くし、子どもたちもいる福岡のアパートに一人住んで久しい。これもまた、将来的には子どもたちの世話になるのだ。残されたのは長男のみ。その彼は実家近くの五代に家を建てて住んでいる。嫁さんは近くの人の老いた命を子どもにも預けるために、遠く古里を後にするとは。あいさつに来た姪っ子の背を見送りながら、秋の風がいつそう沁みる一日となつた。いずれ私たちもそうなるであろう。二人して話すことだった。私の両親は、それぞれ土地を与え、近くに兄弟が住めるようにしてくれた。嫁さんも、ごく近くの集落から嫁いできた。だから静かな老後をといた。でも、そういかなかった。父はともかくとして、母はひっそりと施設で息を引き取った。私といえ、甌島にいて死に目に会えなかった。近くに住む姉もそのころは東京にいた。そんなことなどを考えていると、淋しくなる。お墓も兄姉はお寺の納骨堂を買って、私にも勧められている。村の様子もすっかり変ってしまった。あのどかな農村は遠い昔の話。私たちの老後は息子が。澄んだ秋空に思いはしみじみ広がっていく。詩は愛好家